

教科用図書調査報告書

甲府市教科用図書審議委員会

1 種目 英語

2 報告概要

教科書名 出版社名	特 徴
NEW HORIZON English Course 東京書籍	<p>(1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元の導入では、聞き取りや映像から文法への気づきを促してり、英語の使用場面を効果的に示し、英語でコミュニケーションを図る能力を養うことができる内容となっている。また、読解活動では3ステップの発問要素をもって生徒が自主的に読解に取り組める手立てがある。 ・Unit Activity が設定され、各単元の終わりに、学習した内容を用いて、「聞く」「読む」「話す」「書く」活動に取り組めるようになっている。また、複数の単元を通して学んできたことを統合する Stage Activity が設定され、思考力や表現力を身につけられるようになっている。 ・各単元後の Let' s シリーズでは、目的・場面・状況に合わせた表現活動が設定され、各技能領域に特化した言語活動に取り組めるようになっている。 ・Grammar for communication では、法事項がわかりやすくまとめられており、学習したことが整理できるようになっている。 <p>(2) 内容の程度や学年間の関連が心身の発達に応じて配慮され、生徒の生活や経験及興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校入学から夏休み前までの時期を小中接続期として位置づけ、小学校で学んだ表現を用いて話す活動を設定している。また、小学校で扱った表現をいったんすべて取り上げ、中学校の文法学習として積み上げられるよう再配列している。 ・Unit0 - Unit5 までの時間で、小中の接続を丁寧に行う設定となっている。 ・SDGs「持続可能な開発目標」に関連した内容が、1年生～3年生まで各所で内容が盛り込まれている。また、日本の伝統・文化の発信、国際理解を深め異文化交流を図る題材や自然科学分野に目を向けた題材などが積極的に取り上げられており、世界のためにできることについて考えを深める内容となっている。 <p>(3) 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元の中で4技能5領域を扱う場面が設定され、単元の終わりには、そのまとめとして技能統合型の活動 Unite Activity が設定されている。 ・Read and Think では3段階のステップが用意され、段階的に内容理解を進められるように工夫されている。 ・各単元は聞く活動を中心とした、英語が使われる目的・場面・状況を理解させる活動からの導入となっており、4技能、5領域のスムーズな学習ができるようになっている。 ・複数の単元のまとめとなる Stage Activity では、4技能5領域を駆使した言語活動が設定されている。 ・言語活動に活用できる Tool Box や即興で対話を行う Plus One が設定されており、発展的な表現活動に取り組めるようになっている。

	<p>(4) 文字や記号等の表記が適切であり、資料が学習内容の理解に役立ち、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校で学習した単語に印がつけられており、確認・復習への配慮がされている。 ・ 1年生の巻末では音と文字の関連がイラストで丁寧に説明されており、生徒は正しい発音や口形を確認しながら学習することができるように工夫されている。 ・ Word Room では生徒が様々な活動で使える単語が種類や場面のカテゴリーごとに整理されており、各活動の手助けとなる。 ・ 各学年で3つずつ設定されている学び方コーナーでは、発達段階や教科書の構成に応じた効果的な学習方法を示している。
<p>SUNSHINE English Course 開隆堂</p>	<p>(1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各単元の導入 Scenes はマンガによるストーリー仕立てになっており、新出表現が、どんな場面・状況・目的で使われるのか、視覚で理解できる。 ・ 学習の振り返りを行う Retell と表現活動として Interact が設定されており、言語活動に取り組めるようになっている。また、コミュニケーションで活用する技能ごとに Steps があり、各技能を統合した取り組みとして Our project につながるようになっている。複数の技能が 育成できるようになっている。 ・ 各 Program では、音声導入から思考・判断、表現力育成まで系統立てて指導が行える内容となっている。また“Retell”の活動を盛り込み、イラストとキーワードでコミュニケーションを誘発できるような理解と表現を兼ね合わせた活動を仕組んでいる。 <p>(2) 内容の程度や学年間の関連が心身の発達に応じて配慮され、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各課には既習表現や語彙を使って、ペアで行う Small Talk のコーナー「Try」が設けられ、巻末資料「小学校で学んだ単語」と組み合わせることで、効率よく小学校語彙の定着を図ることができる。 ・ 教科横断的な題材が多く配置されている。社会科、技術分野、人種差別や平和問題について読ませる題材があり、環境・平和・人権などの現代的課題と向き合う考えを深めることができるようになっている。 <p>(3) 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年を通して、1つのセクションの中に、聞く・話す・読む・書く活動がすべて配置されている。 ・ 各単元は、Scene (場面設定) Listen (概要) Think (内容理解) Retell (表現活動) と設定され、4技能を効率よく学習できるようになっている。 ・ Step, Word Web のページを中心に話すこと (やりとり) に関する活動の充実が図られている。 ・ Interact が単元ごとに設定され、目的・場面に基づいた表現活動ができるよう工夫されている。

	<p>(4) 文字や記号等の表記が適切であり、資料が学習内容の理解に役立ち、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学年ともに同じアクションカードが巻末に付されていることで、同じ表現を繰り返し使いながら、異なる活動に取り組むことができる。 ・全学年冒頭に発達段階に応じた辞書の使い方が記されており、自主的な学習への配慮がされている。
<p>NEW CROWN English SERIES 三省堂</p>	<p>(1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した言語材料や言語活動を生かして目的や場面で活用する Use, Write, Use Speak や複数の単元を統合した取り組みができる Project が配置されている。 ・Get Plus や Take Action! が各学年に設定されコミュニケーションの目的や場面に応じて、各技能を活用できるように工夫されている。 ・各 Lesson の導入で絵の構成がしっかりとしており、文法事項を表す Point も見ただ目で分かりやすい。また8個程度のイラストを用意した Drill を使ってパターンプラクティスを意識した活動を仕組み、コミュニケーションの基礎を養う構造となっている。 <p>(2) 内容の程度や学年間の関連が心身の発達に応じて配慮され、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の巻頭に発音とつづりのルールを帯活動で学習する帯活動を設定しており、中学校英語学習の円滑なスタートを図っている。 ・日本の伝統文化、自然科学が各学年に配置されている。また、林間学校・職場体験・修学旅行等、学校行事に関連した内容も取り入れている。 <p>(3) 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元において、GET, USE のパートを通して4技能5領域の基礎となる能力を育成し、Take Action! , Project の表現活動へと段階的につなげていく工夫がされている。 ・単元末には、単元で学習した内容を実際のコミュニケーションの場で活用する GET PLUS を設定し、やりとりの力の育成を図っている。 ・For Self-Study が数回にわたり掲載されており、生徒の自主学習を助けている。 <p>(4) 文字や記号等の表記が適切であり、資料が学習内容の理解に役立ち、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文で扱われる語彙を発信言語と受容言語に分け、新出語句の欄ではフォントを変えて提示し、取り扱いのレベルを学習者、授業者に指名するなど工夫されている。 ・巻末に扱われる場面ごとに単語やフレーズが示され、コミュニケーション活動の際に役立てることができるようになっている。
<p>ONE WORLD English Course 教育出版</p>	<p>(1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生で詳しく学習する不定詞や動名詞を、小学校で慣れ親しんだ表現にかぎって1年生で扱うなど、小学校の学びを生かす構成となっている。 ・単元で、英文を聞いて得た情報をもとに書いたり話したりする task, 単元の終わりには Lesson を振り返ろうが設定されており、学習したことを活用した表現活動ができるようになっている。

	<ul style="list-style-type: none"> • Tips, Useful Expression では、コミュニケーションの目的や場面に応じ、各領域を活用した取り組みができるようになっている。 <p>(2) 内容の程度や学年間の関連が心身の発達に応じて配慮され、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1年生の Lesson1～3は、小学校で慣れ親しんだ絵を見ながら内容を聞き取る活動からの導入となっており、中学校英語へのスムーズな移行を図っている。 • SDGs「持続可能な開発目標」に関連した内容、異文化および我が国の文化理解、歴史、環境、情報、福祉、平和などの話題が豊富に取り上げられている。 <p>(3) 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1つの単元の中に、聞く・話す・読む・書くの活動がすべて設定されている。 • 単元ごとに使用場面と言語の機能に沿ったゴールが設定されている。 • 各 Lesson で知識・技能と思考・判断・表現力の基礎を育成し、まとめとなる Project において、より多様な場面で4技能5領域を総合的に活用する学習が行えるように構成されている。 <p>(4) 文字や記号等の表記が適切であり、資料が学習内容の理解に役立ち、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • How to study では、生徒が自主学習の際に役立てることができる勉強への取り組み方のアドバイスが記されている。 • 巻末の Activities plus に添付された赤色・半透明のシートは、記載内容を隠しながら言ったり書いたりでき、自主学習に役立つとともに、即興力の育成にも効果的である。
<p>Here We Go! ENGLISH COURSE 光村図書</p>	<p>(1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各 Unit の導入部分では、音声と映像が用意され、言語の使用場面を効果的に示しており、学習内容や目標を把握することができるようになっている • 帯教材として Story Retelling があり、各単元で学んだことを使い、自分の言葉で話したり、書いたりする活動が扱われている。 • Daily Life では、各技能を活用し、生活場面を設定したやりとりができるように工夫されている。 • 読む活動について、読む機会と量を段階的に増やし、生徒の長文読解の力を養う構成になっている。 <p>(2) 内容の程度や学年間の関連が心身の発達に応じて配慮され、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各 Unit にテーマ性があり、「日本文化」の紹介、「国際理解・異文化交流」についての理解はもとより、「職業観」「環境保全」「防災」「平和」「科学技術」など Unit を通して一貫したメッセージで生徒に考えさせる仕組みがある。 • 学校生活や家族などがテーマになっている単元が多く、場面をイメージして取り組みようになっている。 <p>(3) 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各単元が Story Telling から導入されており、即興力の育成を図るとともに、音声中心の導入から読んだり書いたりする活動へと無理のない学習の流れとなっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末の Goal, 3つの単元ごとに設定されている You Can Do It!では技能統合型の活動に取り組めるようになっている。 ・単元ごとではなく、各ページごとに Listen, Speak, Write が設定され、表現活動に取り組めるようになっている。 <p>(4) 文字や記号等の表記が適切であり、資料が学習内容の理解に役立ち、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即興力を高める帯活動の教材が添付されている。 ・巻末の英語のしくみでは、語彙や文法について視覚的にわかりやすく説明しており、生徒の自主学習にも生かすことができる。
<p>BLUE SKY English Course 啓林館</p>	<p>(1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Express Yourself では、各単元で習得した言語材料を用いて、単元のテーマに基づき、表現活動ができるようになっている。 ・ミニスピーチに取り組む Express Yourself では、「聞くこと」や「書くこと」に活動による3段階のステップから、スムーズに発表へとつなげられる構成になっている。 <p>(2) 内容の程度や学年間の関連が心身の発達に応じて配慮され、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の初期の Let's start では、イラストを大きく使用し、文字に慣れていない生徒たちにも取り組みやすい内容になっている。 ・3年生の Further English は、高校でよく扱われるディスカッションや長めのライティングを練習する構成となっている ・各単元で学んだ内容と関連した「More Information」があり、学びを深められるように設定されている。 <p>(3) 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Talk, Let's Listen, Let's Read により各技能を集中して学習する機会を設けている。 ・各 Unit の終末に単元の学びをもとに自分の考えを発表したり、友達とやりとりしたりする活動が設定されている。 <p>(4) 文字や記号等の表記が適切であり、資料が学習内容の理解に役立ち、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の教科書の本文は、生徒が書く字体に近いフォントが使われており、文字を正しく認識させることへの配慮がされている。 ・2年時、3年時の教科書の冒頭に設けられた「こんなときどうなの？」では相手への効果的な相づちや返答の表現が紹介されており、やりとりの活動の際に活用できるようになっている。